

週間天気		徳島		阿南								
9	12	15	18	21	24	あす	12日(土)	13日(日)	14日(月)	15日(火)	16日(水)	18日(金)
12日(土)	13日(日)	14日(月)	15日(火)	16日(水)	18日(金)	12日(土)	13日(日)	14日(月)	15日(火)	16日(水)	18日(金)	

この日は下り掲載

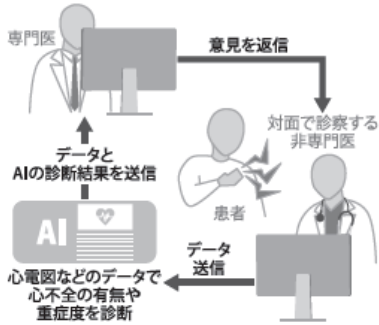
のち 5.5以上
5.5未満
一時々々

数字(上) 最高気温
(下) 最低気温
丸囲みは降水確率
白丸は正午の風向
矢印なしは無風

心不全 遠隔医療にAIを

徳島大の技術応用 開発へ

AIを活用した心不全の遠隔医療システム



高齢化で増加している心不全について、徳島大学(徳島市)や国立循環器病研究センター(大阪府吹田市)などがAI(人工知能)を使った遠隔医療システムを開発する。心不全は症状急変などリスクが高く、新システムでは地方の専門医不在に対応しつつ医師の負担軽減を目指す。2026年度中に完成させる計画だ。

【榎松晃一】

他に、名古屋大学医学部附属病院と九州大学病院、遠隔医療支援システム「Case line」を開発した大阪市の医療系IT企業「ハート・オーガナイゼーション」が参加する。新システムはハートの超音波検査(心エコー)の画像データを入力する。

徳島大学の榎松晃一准教授は「AIによる診断精度を現在より高める。国立研究開発法人「日本医療研究開発機構」(東京都千代田区)から約2億4000万円の支援を受ける。

患者増加、専門医不足に対応

と、心不全の確率を推測したり、異常を検出したりするAIモデルを開発。だが、同病院での活用にとまっていた。

名古屋大は患者約4000人分の検査データを提供。AIにデータを提供。AIにデータを提供。AIにデータを提供。

榎松准教授は「AIにより心不全の有無や重症度などを示されることで、非専門医は病状についてある程度の見立てがつく。さらに遠隔の専門医にAI診断の結果や元データを送って、意見をもらうことで踏み込んだ診断が可能となる。専門医も直接診察の負担が減る」と期待している。

いる専門医にも送り、意見を求める。最終的な診断を医師が担う点は変わらないが、一部のデータや画像の分析をAIに委ねることで診断時間を短縮できるほか、専門医も重症でない患者について当面は非専門医に任せるとして重症患者により注力できる利点がある。

心不全の診療について、榎松准教授は研究者の論文から全国で1カ月以外が50万件以上、入院が2万件以上あると推計。高齢化を背景に今後も増える可能性があり、専門医だけでは限界を迎えつつあるという。

榎松准教授は「AIにより心不全の有無や重症度などを示されることで、非専門医は病状についてある程度の見立てがつく。さらに遠隔の専門医にAI診断の結果や元データを送って、意見をもらうことで踏み込んだ診断が可能となる。専門医も直接診察の負担が減る」と期待している。

小松島の「焼くわ」
香芳 薫
農林水産大臣賞 受賞
厚生労働大臣賞 受賞
谷ちくわ商店
TEL(0885)32-0867